

地質情報展2006こうち 体験コーナー -自分だけの化石レプリカを作ろう!!-

中島 礼¹⁾・利光 誠¹⁾・中澤 努¹⁾・坂野 靖行¹⁾

地質情報展の体験コーナーの目玉の一つである「自分だけの化石レプリカを作ろう!!」が地質情報展2006こうちで行われました。化石レプリカ作りも地質情報展と同じ10回目となり、このイベントも全国各地に少しずつ普及していると思われま

す。今回は、前回、前々回の千葉と京都における地質情報展で行ったように、3日間通しの種類と日替わりの種類のどちらかを選んで作成するという方法で行いました。毎日作製できる化石レプリカとしては、地質標本館でのイベントでも人気の高いアンモナイト (*Mesopuzosia pacifica* Matsumoto: GSJ F08546)、日替わりとして15日は三葉虫 (*Pseudogygites canadensis* Chapman: GSJ F07704)、16日は三角貝 (*Scabrotrigonia* sp.: GSJ F15729)、17日はピカリヤ (*Vicarya yokoyamai* Takeyama; GSJ F16924)を選びました。日替わりの種類の産出年代は、それぞれ日程の順で古生代、中生代、新生代という順番であり、通しで作成するアンモナイトは中生代のものです。高知県は昔から中・古生界の化石の産地として有名で、今回作成した化石である三葉虫、アンモナイト、三

角貝は、種こそ違いますがそれぞれ高知県をはじめ四国の多くの地層から産出されています。ピカリヤについては、化石の豊富な地域であるにもかかわらず、高知県だけでなく四国からの産出もありません。

レプリカの作製法について簡単に書くと、次のようになります。

- 1) 受付で作りたい化石の種類を選んだ後、席に着いてビニルシリコンでできた化石の型を受け取る。
- 2) 石膏と水をカップに入れて念入りに溶く(写真1)。
- 3) 水に溶いた石膏を化石の型に半分ほど入れる(写真2)。
- 4) 型を下から振動させて、型の表面や石膏中に含まれる空気を追い出す(写真3)。この作業を十分にやらないと出来上がりのレプリカの表面に小さな穴が空いてしまいます。
- 5) 残りの石膏を型に入れて終了。あとは20~30分固まるのを待って、型から石膏を取り出します。固まったレプリカに水彩絵の具を使って色づけることもできます。

作業自体は10分程度で終わりますので、作成したレ



写真1 レプリカ作製風景。石膏と水をしっかりとかき混ぜます。

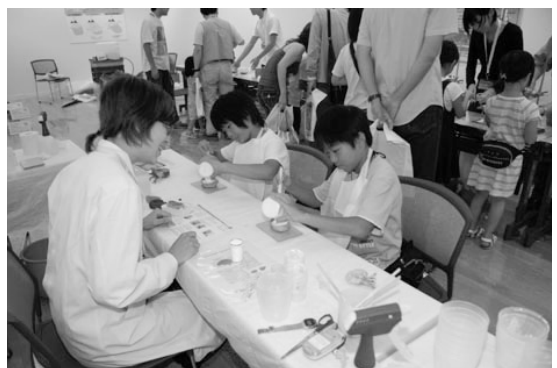


写真2 水に溶かした石膏をレプリカの型に流し込みます。

1) 産総研 地質情報研究部門

キーワード：地質情報展こうち、化石、レプリカ作製、体験型イベント



写真3 型を振動させて空気を石膏中から追い出します。この作業は非常に重要です。

プリカが固まるまでの時間30分ほどはほかの展示をみてもらい、また、ほかの体験コーナーで楽しんでもらいます。

レプリカの作製個数は、15日は合計37個、人数24名(アンモナイト18個、三葉虫18個)、16日は179個、人数120名(アンモナイト99個、三角貝81個)、17日は211個、人数148名(アンモナイト107個、ビカリヤ104個)でした。例年はもう少し参加者が多いのですが、初日の15日が平日だったことや小学校の団体が無かったことが参加の少なかった原因の一つと思われます。ただ、15日には新聞やテレビの取材があり、体験コーナーの様子が新聞に掲載されたり、テレビに放映

されたりしたので、翌日以降の情報展への参加者が増加したようです。

今年が高知大学で開かれた地質学会の会場とは離れた場所で開催したせいか、参加者に学会関係者は少なく、一般の方が多かったようです。中には2日間かけて1人で15個(3種5セット)作った小学生がいました。彼は家族や友達にあげるからと言って頑張ってくれました。レプリカ作りが気に入ってもらえたようで私たちも喜ばしいことです。また、教員の方にも何名か体験してもらいましたが、レプリカ作りや化石を授業に使いたいということで、念入りにレプリカ作製の技術を聞いていました。ぜひ学校で活用してもらい、化石やレプリカ作りが広く普及していくと私たちも嬉しく感じます。

今回のレプリカ作製には、高知大学の学生6名にお手伝いしていただきました。地質・古生物と関係がある学生たちではなかったのですが、ほとんどが教育学部の学生たちで積極的に化石のことを勉強したり、レプリカ作りの指導に取り組んでくれました。また、笑顔を絶やさずに子供から大人まで丁寧にレプリカ作りを指導してもらえたことが印象的でした。この場を借りてお礼申し上げます。

NAKASHIMA Rei, TOSHIMITSU Seiichi, NAKAZAWA Tsutomu and BANNO Yasuyuki (2007) : A special section for an experience of a making fossil replica in "Geologic Exhibition in Kochi".

<受付：2007年1月25日>